



見附市学校町 2 - 7 - 9

電話/Fax 0258-62-2343

E-mail mrisen@mitsuke-ngt.ed.jp

令和 3 年 1 1 月 2 2 日 NO.8

観音山公園の紅葉



Reading と Writing の能力を育成するために

師がく指導者 小林 恵子

今年度の「師がく」で英語授業を参観して特徴的だったのが、中学 1 年生の Speaking の上手さと、それと相反するような Reading と Writing の苦手感である。

小学校では、約 700 語の英単語を習うことになっているが、英単語付きの絵カードで提示されるだけで、その綴りには児童の注意は殆ど向けられていない。今年度、中学校では教科書が変わり約 1800 語が新たに出てきている。生徒が消化不良をおこすのも頷ける。

そこで、Reading と Writing の能力を育成するために、小学校では下記の①～②を、中学校では③～⑥を、授業改善の手だてに加えてほしい。

- ① 絵カードを見せて単語の発音練習をする際に、b-b-bread(ブ、ブ、ブレットウ)のように、フォニックスの練習方法も取り入れる。その後、敢えて「絵(のみの)カード」と「英単語(のみの)カード」を用意して、カルタ取りゲームを行う。
- ② 各校では、振り返りシートやノートに学習課題を◎で記入させているが、本時で習った表現も、授業の終わりに How much is it? It's 400 yen. のように、記入させる。

- ③ アルファベットの「名前読み」と「音」については指導している学校が多いが、新出単語を練習する際に、例えば make が出てきたら cake や lake も提示して読ませたり、cute が出てきたら e を手で隠して cut と読ませる等してフォニックスのルールに気付かせる。
- ④ 1 年の Lesson3 までは、小学校で履修した内容だが、文法に関しては小学校では殆ど指導されていない。従って中学校では「助動詞 can+動詞の原形」「be 動詞と一般動詞」「What,Who,How many 等で始まる特殊疑問文」等について、理解させた上で言語活動を行う。
- ⑤ 本文の Reading 練習の際に、チャンク(意味のまとまり)毎にスラッシュ(/)で区切らせ、その後ペアや 3～4 人グループで直訳に取り組みませ発表させる。
- ⑥ デジタル教科書やパワーポイントの使用は、有効な時のみに絞る。板書は非常に大切で、本時で学習した英文を(ワークシートの穴埋め形式ではなく)速く正確にノートに写させたい。

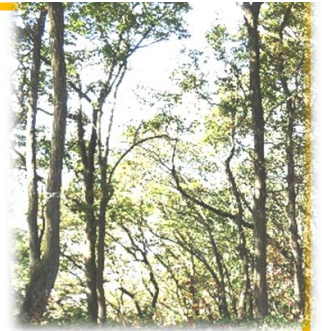
児童生徒を主役にした授業を積み重ねることが、英語力を高めることに繋がる。

巻頭写真に寄せて ～『ブナ・アカシデ自然林』～

— 観音山公園の自然林は「見附市指定文化財」だと知っていますか？ —

◇春、山道に連なる桜並木の美しさ。初夏は様々な紫陽花が山肌一面を埋め尽くす観音山公園。このイメージを持っていたが、私が見附市を知るバイブル「みつげ塾『つなぐ』」には「亜高山帯に生息するブナと低地に生息するアカシデが混在する自然林」と、観音山公園を紹介しているではないか。

◇早速、今月上旬の晴れた日に観音山公園に出かけてみた。ブナは日本の温帯林を代表する樹木でよく知られている。小学校では、この時期、一年の生活科『あきをたのしもう』で、ブナやミズナラ・シラカシの葉や実で「あきのあそび」の学習を行っている。I小学校のM子さんは、この学習で観音山隣地の「市民の森」に行くことを大変に楽しみにしていた。拾ってきた葉や木の実で、自分の宝物を作ったに違いない。さて、アカシデはどんな植物と思われるかもしれない。日本各地に分布し、花や新芽など木全体が赤味を帯びる樹木で、紅葉も美しいので庭木としても用いられる。また、枝は剪定をしなくてもいい形を保ってくれ高さもあり、公園によく植えられている樹木である。このアカシデが、他の公園のように人の手で植林をされたものでなく、自然林で広範囲にあることが素晴らしい。観音山公園は今、人の手で一株一株植えられた紫陽花園の先に、天を衝くようなアカシデの林が広がり、ブナの巨木の根元は絨毯が敷かれたように、木の実や落葉で埋め尽くされ、誠に美しい。春から晩秋まで、様々な姿で『もてなしてくれる観音山公園』を、多くの皆さんに訪れてほしいものである。



アカシデ林



木の実や落葉

コラム・「誰もが安心して暮らせる社会の実現」を生涯訴えた内橋克人氏を想う・

◇経済評論家の内橋克人が9月に亡くなった。昨年、私はこのコラム欄で、「学生時代、週刊誌の編集室で、アルバイトをやり、経済評論家の所に原稿取りに行った」と書いた。原稿取りに行った経済評論家とは内橋克人である。私は経済史に精通していないし、経済の方向性は政権の政策(というより、世界の動きの中)で決められていることを承知の上で、内橋克人の弱者の視点に立つ「共生経済」を述べる。

◇私には原稿取りに伺うたびに、対応をしてくれた柔和な表情の内橋克人が忘れられない。晩年は前髪が後退したが、白髪(若い頃は黒髪)をオールバックにし、穏やかな表情で語る姿は変わらなかった。内橋は後に、新聞紙上に「日本の高度経済成長を支えた現場の技術者たちを活写した『匠の時代』」を連載し、脚光を浴びる。一方で、技術立国で向かうところ敵なしと言われていた日本経済が、大量生産・大量消費を前提とした量産効果に依存している弱点を指摘した。この頃から、テレビに出演するようになり、国谷裕子がキャスターを務めたNHKの「クローズアップ現代」によく出て、「弱い立場に置かれる人の視点に立って、誰もが安心して暮らせる社会の実現」を訴えた。これは、高度経済成長期やバブル崩壊後に進められた社会保障費の削減や規制緩和、雇用の自由化といった政策の時代の話で、「新自由主義」と呼ばれる経済政策である。規制緩和で参入障壁が減り自由競争が活発になり、航空業界でLCCと呼ばれる格安航空会社が誕生し、航空運賃が値下げになる。コンビニでキャッシングができるようになったのは規制緩和のおかげで、規制緩和は、人々の暮らしを便利にすることに繋がった。しかし、内橋が指摘した格差の問題が起こる。自由競争により「持つ者」と「持たざる者」が生まれた。小泉純一郎内閣での規制緩和によって派遣労働が自由化され、リーマンショック時に大量の派遣切りが起き、その後も正規労働者と非正規労働者の間の格差が固定化、拡大をして現在に至っている。



◇内橋克人は亡くなる一か月前まで、ラジオ番組で「働くことは人間の尊厳を守る。経済は人が人らしく生きるためのものであって市場競争一辺倒からの脱却を訴え、人を大事にする『共生経済』を提唱」していた。

◇新型コロナ感染症以前より、生活が苦しい家庭が多い。各地に「こども食堂」等の支援の輪が広がっているが、経済政策の中で、誰もが安心して暮らせる社会の実現をしてほしい。岸田文雄首相は「成長と分配」を掲げ、「新自由主義的政策から脱却し、労働者への目配り、分配を打ち出す新しい資本主義を目指す」と言っている。子どもたちが学校で楽しく学べるには、「安心して暮らせる家庭」があることが前提にある。(こ)

4時から夢塾 ～ がい数ゲームで、『ずるい!』～

第8回「4時から夢塾」(示範授業1)は10月26日(火)、新潟大学附属長岡小学校の笠原知明先生から、見附小学校で4年算数「がい数」の授業で指導を頂いた。



1 授業の様子 ○本時の主眼・がい数ゲームの勝敗が、同じくらいになるカードの数字について話し合う中で、四捨五入の考え方をういれば、勝敗が平等になる数の範囲ができることを理解し、見出したアイデアの妥当性をゲームで確かめることができる。 笠原知明先生
○課題の提示(がい数ゲーム) ①約400チームと約500チームの二つに分かれる。②チーム代表が袋A(4, 5が入っている)から1枚カードを引き、百の位に置く。③一方のチームが袋B(0~9が入っている)から1枚カードを引き、十の位に置く。④できた3桁の数が近い方のチームにポイントがもらえる。

T1 がい数ゲームで、より多くのポイントをゲットしてみましょう。

*子どもの素直な言葉を待つ C「ずるい」「中が見たい」etc →T「どうして?」→◎(追求問題)

◎ 勝ち負けが同じくらいになるカードの数字をかながえよう。

T2 袋の中に新しく増やしたり、減らしたりするとよいカードの数を考えてみましょう。

→数直線を用いて、個人で考えたアイデアを持ち寄って小集団を作り、広めていく姿を支援していく。

T3 みんなで考えたアイデアを使うと、ゲームの勝ち負けが同じくらいになるのか試してみましょう。



2 指導力向上講座 (算数:ミニ講座)

○日々の授業導入で大切にしたいこと 課題提示⇒追求問題の設定, 追求問題の設定⇒自力解決・練り上げ・既習を生かしてやってみる。→「あれ!?!」「どうして?」が生まれるしかけを含む課題。これが◎
・◎のあとは「問いの焦点化」へ・追求問題◎を解決するには、何をはっきりさせたらよいのかな?
・追求問題◎を解決するには、何を使って考えたらよいのかな?→図表, 教具 etc 思考ツールの選択

○個別最適な学びと協働的な学びを〇〇でつなぐ・タブレットを使う風潮。デスカッションすれば協働?
・あらかじめ個人で考えたこと(個別)を、意見交換したり議論したりすること(協働)で、新たな考え方に気が付いたり、自分の考えをより妥当なものとしたりする。(個別)

→学習内容の理解は、個で考えたことを集団の練り上げを通して磨かれ、個の中で理解が図られる。

○実際の授業ではこんな場面が増えていきます ・子どもが困っていないのに…ペアやグループで話し合ってみましょう。→必要感のない少人数での話し合い。上手な発表の一方で聞き手の意識に問題。役割の固定とフリーライダー(同調)の出現 etc

○聞き手に働きかける話し手を育てる・「何でこうなったと思いますか?」

・できたら価値付けて可視化・「聞いている人に、話しかけられたかな」
→よい発表にはよい聞き手が大切なんだ。先生は聞いている人も見ているよ。

<参加者の声> ・課題の提示からどのように追求問題を設定していくのか、子どものつぶやきをどう取り上げていくのか等、大変参考になった。
・数直線で可視化することで、どうしたら平等になるのかが分かり易かった。
・教科のスペシャリストから学べて有り難い。板書が必要最小限で非常に見やすく、子どもたちは集中する。
・子どもの追求意欲を高める導入と、子どもの意識のずれを子どもたちに確認する発問が参考になった。
・子どもの言葉や表情を落とさずに見る・聞くを見せてもらった。はてな?から課題を作るモデルの授業だ。
・初めて、本研修の小学校を参観した。小中連携の意味でも、小学校の学習内容の再確認の意味でも大切だと思う。



4時から夢塾 ～条件変更による探求的な学びをつくる～

第9回「4時から夢塾」(示範授業2)は11月16日(火)、南中学校で新潟大学附属長岡中学校の橋本勉先生から、3年の数学「式の計算」の授業で指導を頂いた。

1 授業の様子 ○本時のねらい… ① 原問題の諸要素に着目し、条件変更した問題をつくることができる。 ② つくった問題の答えを、根拠をもって予想することができる。 ③ つくった問題を、原問題を参考にして解決しようとする。



橋本 勉 先生

T 問題を提示 $43 \times 47 \quad 96 \times 94 \dots$ を板書。しばらく待って「計算の工夫に気付きはじめて？」
適当に数を置いていないことを確認 → 「積は十の位と十の位に1を加えた数の積、一の位どうしの積」
文字式では $(10a+b) \times (10a+c) \Rightarrow 100a(a+1) + bc$ C: どんな数字でも使えるんだなあ。

◎ 条件変更した仮定と結論をつくろう (仮定の条件変更と、それに伴う結論を想定させる。)

「自分なりの条件」 → 「予想・正しいの？」 ・ ICT機器を使い、つくった仮定と結論を共有する。

T オクリンクに送ってある。「こんな仮定をしたらこんなふうになるのでは」を考えて、送ってください。

・結論を想定できない場合もあるので時間を区切る。・級友が作った仮定を自分の仮定づくりの参考にする。

・自分がつくった結論が正しいか、まず自分(個人)で、そして同系同士で解決する。

T 「こういう仮定をしたら…。ちょっと変更すると何かありそうだ…。」等を振り返りシートに書き込む。



2 指導力向上講座 (数学:ミニ講座)・・・「探求的な学びを目指す」

○数学の探究の形 RLA (研究者の研究活動に準ずる活動)・・・今日の問題はこの中の一部「整数の乗法」

・ガイダンス「教師の支援による問題の触発」「教師の支援による直接的・間接的体験」

・オリエンテーション「教師と生徒の合意による課題群及び目標の設定・活動の共有」

・生徒主導の体験的活動「解決の構想」→協働「課題解決」・・・「発表・討論」「吟味」「振り返り・まとめ」

○感情を動かしたい・・・自ら動き出す「探求的な学び」では、感情を伴って5つの様相(問い、思考、試行、没頭、対話)が表出する。ここでの感情こそが探求的な学びを推進する原動力になると言える。

・生徒の心を動かして、課題解決に向かわせたい。自分たちで力を合わせ、自信をもって頑張らせたい。



<参加者の声> ・中学生が真剣に授業を受ける姿、高度な課題に取り組む姿、友だち同士の対話やICTを使った交流の様子を知ることができた。小学校での指導に必要なことや見通しを持つことができた。

・1時間でメリハリをつけて、課題に進む様子がよくわかった。条件変更はやってみると、生徒は自分の作った問題を言葉にしようとしたり具体で考えたりと、頭をフル回転させてやっていて充実していたと思う。

・挑戦してみたいと思わせる、少し難易度の高い問題提示での導入や見通しの持たせ方等、とても参考になった。

・クロームブックの活用場面がとても参考になった。「簡単に共有ができる」という利点を改めて感じた。

・オクリンクを用いた授業を見られて良かった。また、生徒がペアで、真剣に相談をしている姿が印象的だった。

・文字や証明など苦手な生徒が多くどうアプローチしようかと悩んでいたが、新たな視点を獲得することができた。取り入れていきたい。生徒一人ひとりの“やりたい”を大事にしていきたいと思う。

11月



科学教育部

【小学校5年生の理科学習】



《今月の1枚》
大平森林公園の展望台から

《流れる水のはたらき》

小学校5年生では「流れる水のはたらき」の単元が終了し、「電流のはたらき」の学習に移る頃だと思います。「流れる水のはたらき」ではGoogle マップの航空写真から、水のはたらきでできた地形を見つけることができます。右の図は、見附市内の刈谷田川の一部です。流れてくる水のはたらきでできた地形です。学習した内容を身近な地形にあてはめることは、得た知識を生活と関連付けることで確かな知識になっていきます。その地点を実際に降り立ってみれば、河川の外側の侵食や内側の堆積がより明確になります。ICT の良さは、実体験できないことも見えるようになることです。しかしICT で体験したつもりになるのではなく、実体験・実生活とつなげることが大切です。



(Google マップより引用)



《電流のはたらき》

電気の単元の学習の中心にあるのは「エネルギー」です。5年生の電磁石の学習で、児童ははじめて『電気が動力に変わる』ことを知ります。この単元をどう構成しますか？3年生は「磁石」、4年生は「電気」について学習したことが基になってきます。

「永久磁石」と「電磁石」の違いとして、例えば、電気を切ると磁石のはたらきがなくなることを整理します。4年生で使用したモーターとの関連も必要です。既習事項との関連や生活との関連を図ることで、学習内容を価値づけることが大切です。

そして、学習したことをSDGsで考えていくと、目標7「エネルギーをみんなに、そしてクリーンに」などの視点を基に、電気エネルギーの利用を考えることができます。これからの発電方法などを考えていくことにも繋がると、さらに視点が広がります。



見附市はSDGs 未来都市(全国31自治体)に選出されています。

科学の公園

見附市には「市民の森」があります！～身近な里山～

見附市「市民の森」は、どこにあるかご存じでしょうか？大平森林公園を行事等で、使う学校はよくあります。「市民の森」もっと活用されてはいかがでしょう。4月には400本の桜が咲き誇り、初夏から秋にかけては植物たちが様々な顔を見せてくれます。冬にはスノーシューなどでの雪山散策も行われています。季節を体感するには、とても素晴らしい場所です。

大平森林公園



見附運動公園

(Google マップより引用)



初春



夏



秋



冬

上記の画像は、ドローンで市民の森を季節ごとに空撮したものです。それぞれの季節での色合いに大きな違いがあるのが魅力です。常緑樹も落葉樹も含め、様々な樹木により全体の色合いも移り変わり、歩道を歩けば道ばたで咲く花にも変化が見られます。

市民の森では「森の仲間」という団体の方々が管理に携わっており、学校で授業や体験の際には講師を務めて下さいます。近年、木工作业所も新設され、ものづくりの体験も行うことができるようになりました。その一例を紹介します。



自然体験は子どもたちの感性を育てるのにとっても重要なので、ぜひ各校で活用を検討してみてください。活用の希望があれば、教育センターもお手伝いをします。